

営業の成果

預金

預金は、期中406億34百万円増加し、期末残高は797億10百万円となりました。このうち定期性預金は、13億75百万円減少し、期末残高は319億22百万円となりました。

貸出金

貸出金は、期中16億83百万円増加し、期末残高は16億86百万円となりました。

有価証券

有価証券は、期中231億30百万円増加し、期末残高は455億29百万円となりました。

有価証券はすべて国債であります。

総資産

総資産は、期中576億45百万円増加し、期末残高は1,130億79百万円となりました。

内国為替取扱高

内国為替取扱高は、前年度比2,554億57百万円増加し、2,895億11百万円となりました。

損益の状況

当期は、前期に引き続きインターバンク市場や国債で運用することで確実に収益を上げることに努めました。また、決済手数料による役務取引等収益が大きく収益に貢献しました。一方、商品開発のために必要なシステム投資を行うとともに、適正規模の広告宣伝費を計上いたしました。これらにより、経常収益につきましては、前年度比14億49百万円増加し、15億11百万円となりました。一方、経常費用につきましては、前年度比30億70百万円増加し、69億30百万円となりました。以上の結果、経常損失は54億19百万円、当期損失は54億24百万円となりました。

今後の方向

本年は他のインターネット専門銀行や既存銀行のインターネットバンキングサービスとの競争が本格化することが予想されます。当社は、創業以来獲得した認知度と顧客基盤をベースに、確固たる収益力を構築していくステージと位置づけ、インターネット専門銀行のパイオニアとして、役職員一同次のとおり努力してまいります。

第一に、有力サイトとの提携、金融資産保有層への取り組み、ATM等のチャネル戦略により引き続き顧客基盤・預金の増強を図ってまいります。第二に、個人ローンの取組強化、決済手数料の増加、経費圧縮により収益基盤を確固たるものにしてまいります。第三に、カスタマーサービスの向上とともに、リスク管理体制、コンプライアンス態勢などの内部管理体制を強化してまいります。

